

令和7年度「行きたい学校づくり」推進事業 探究学習推進
第1回沼駿地区探究学習推進コンソーシアム構築準備会

日 時 令和7年 10 月 27 日(月) 午後1時 30 分から4時 30 分まで
場 所 静岡県立沼津西高等学校 会議室

次 第

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1 拠点校校長挨拶 静岡県立沼津西高等学校長 鈴木康之 | 13:30～ |
| 2 高校教育課からの説明 指導1班 教育主査 遠藤圭一 様 | 13:35～ |
| 3 拠点校の計画の説明等 | 13:40～ |
| (1) 沼駿地区コンソーシアム構築案 拠点校 | |
| (3) 質疑応答 | |
| 4 先進事例の紹介 | 14:30～ |
| (1) 山形県 新庄最上ジモト大学コンソーシアム | |
| (2) 島根県 浜田教育魅力化コンソーシアム | |
| 5 情報交換 | 15:30～ |
| 6 今後の予定 | |
| 7 その他 | |

1

静岡県教育委員会「行きたい学校づくり」推進事業

沼駿地区 探究学習推進 拠点校指定(令和6年度～8年度)

静岡県立 **沼津西** 高等学校

沼駿地区探究コンソーシアム構築案

令和7年度

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

1

2

沼駿地区

東部の鉄道
東海道本線
御殿場線
身延線
伊東線
伊豆箱根鉄道
伊豆急行
岳南鉄道

通学範囲
三島田方地区や
富士地区からも

人口(令和7年9月1日現在)

沼駿	401,158	-199
三田	300,194	-320
富士	360,871	-137
賀茂	52,987	-149

高校等(沼駿)

県立	9校
市立	1校
特支	6校
高専	1校
私立	9校

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

2

研究事業名

3

県内全地区における
探究コンソーシアムの構築

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

3

テーマ(沼駿地区)

4

探究学習推進

探究学習推進によって各校のスクール・ミッション、
スクール・ポリシーを実現する

↓

行きたい学校づくり

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

4

中央教育審議会 探究WG 25/10/155

文部科学省

令和7年10月15日
教育課程部会
生涯総合的学習探究の時間
ワーキンググループ
資料1-2

総合的な学習・探究の時間に関する
現状・課題と検討事項

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

5

探究とは？6

?

対話・知識・思考

→

!

探究のプロセス

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

6

ねらい(沼駿地区)

7

- 1 探究的な学習手法の沼駿地区全校での実践による主体的に学ぶ力の育成
- 2 探究に係る地域資源の有効活用
- 3 探究学習によって地域貢献できる人材を育成し、地域活性化に寄与
- 4 大学入試（総合型選抜等）への対応

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

7

ゴールイメージ

8

- 1 全地区におけるコンソーシアム構築
- 2 コンソーシアムを通じ、地域資源を有効活用した3年間の指導計画と教材の完成

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

8

コンソーシアム構築行程

9

- 1 指定事業期間(令和6～8年度)
(1) 探究研究協議会(高校)
(2) 探究研究協議会(高校+地域等)
(3) 指定事業後の準備
- 2 指定事業後(令和9年度以降)
自走するための仕組み(組織、事業、予算等)
が必要 ➡ 先進地域を参考

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

9

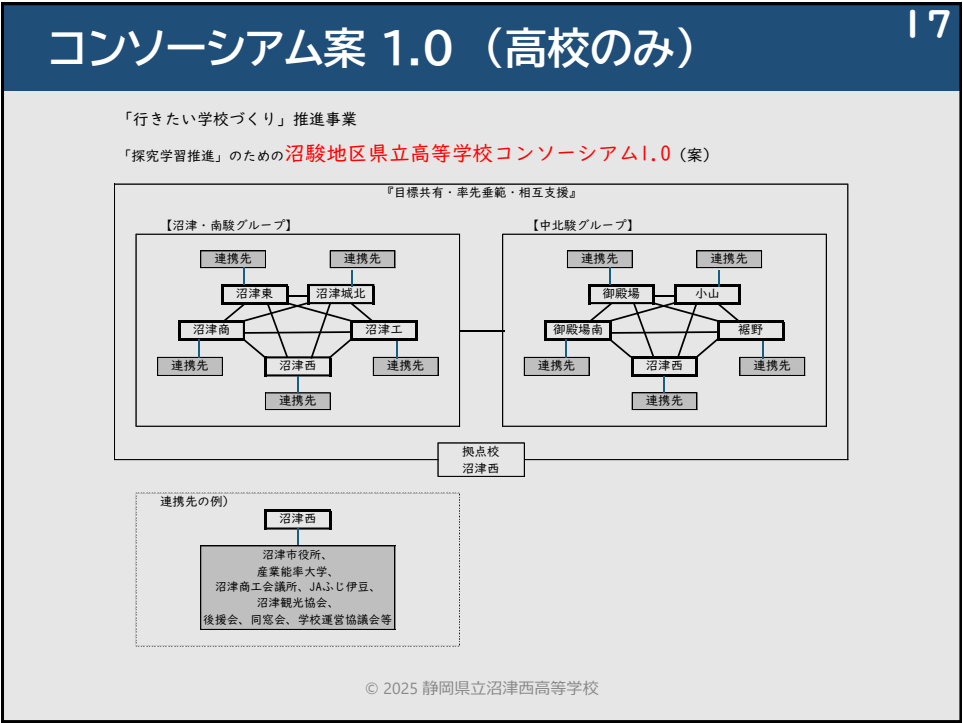
先進地域参考例

14

- 1 山形県最上地方
新庄・最上ジモト大学コンソーシアム
➡ コンソーシアムの仕組み
- 2 島根県浜田市
HAMADA魅力化コンソーシアム
➡ コーディネーターの活用
- 3 静岡県内
ふじのくに地域・大学コンソーシアム
➡ 県内の自治体等との関り方

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

14



研究事業、テーマ、ねらい、ゴールイメージを押さえ続ける

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

19

令和7年度沼津地区探究コンソーシアム構築案

1 「行きたい学校づくり」推進事業

本事業は令和6年3月に策定した「静岡県立高等学校の在り方に関する基本計画」における「学びの変革」等の具現化のため、取組テーマとして「探究学習推進」等の4つの項目を設定し、実施する。

【探究学習推進】の留意点

○目的…生徒の自主性や学習意欲を喚起する探究的学びへの変革及び県内全ての県立高等学校が、連携して探究学習に取り組む体制作りを確立し、多様な学習ニーズ・進路希望等に対応した学びへの変革することを目的とする。

○ねらい…探究的な学習手法の全校での実践による主体的に学ぶ力の育成、探究に係る地域資源の有効活用、大学入試（総合型選考等）への対応 ○ゴールイメージ…全地区におけるコンソーシアム構築、コンソーシアムを通じ地域資源を有効活用した3年間の指導計画と教材の完成

●沼津地区拠点校…沼津西 ●連携校…御殿場、御殿場南、小山、裾野、沼津東、沼津城北、沼津工業、沼津商業 ●（オプザーバー校…市立沼津）

2 沼津地区の探究学習推進計画

1 拠点校の計画（令和6～8年度）（詳細別紙）

(1) テーマ…探究学習推進により各校のスクール・ミッション、スクール・ポリシーを実現

(2) ねらい ●探究的な学習手法の沼津地区全校での実践による主体的に学ぶ力の育成 ●探究に係る地域資源の有効活用 ●探究学習によって地域貢献できる人材を育成し、地域活性化に寄与

●大学入試（総合型選考等）への対応

2 連携校の令和7年度の計画（詳細別紙）

3 背景

【静岡県立高等学校の在り方に関する基本計画-静岡の未来を創る生徒のための学校づくり 令和6年度～令和10年度】（令和6年3月静岡県教育委員会）目指す県立高等学校像

【学びの変革】変化の激しい時代―「探究的な学び」等を通じて主体的、多様な学びを

【地域（実社会）との連携】―社会資源の活用も含め地域と一体となった教育活動

【教育基盤の確立】―公教育に求められる学びの機会を提供するための教育基盤の確保

○計画の概要（骨子）

●地域との対話のプロセスを重視した学校運営の推進 ●学校や地元自治体、社会教育機関、民間企業等が主体的に連携し、高等学校を支える仕組みの検討 ●学校と地域をつなぐコーディネーターの活用

【沼津地区グランドデザイン】（令和6年7月）

【学びの改革のあり方】から

●多様で持続的・革新的な学びの展開 ●学びの変革に向けた環境整備

【地域との連携のあり方】から

●全ての公立高校における地元自治体や地域産業界との連携強化

●地域と連携した探究学習、職業観の育成・キャリア教育の推進、地域産業の担い手育成 ●多様な経路を踏まえた人財形成の機会の提供 ●市街地の再開発や駅の駅舎化など、沼津地区のまちの将来等について考える機会の提供 ●学校と地域や企業とをつなぐコーディネート人材の育成

【教育基盤のあり方】

●グランドデザイン実現に向けた最適な方策の検討 ●学校・学科間で連携した学びの推進（遠隔教育の活用） ●未来を見据えた実学系高校 ●横断的な学びの普通科高校

4 県立高等学校における探究学習推進の主な課題

高等学校における探究学習推進の主な課題

1 外部講師とコーディネーター

(1) 探究のために高校の教員だけでなく地域の人材による指導が求められる

(2) 信頼できる外部講師を毎年開拓するのは労力がかかる

(3) 探究の外部講師のコーディネーターの人材が学校には不足しているで活用や育成が必要

(4) 連携校や拠点校の外部講師への報酬費が探究の費用の中で5割から3割を占める

2 複数の市町に開通

(1) 高校の所在地のある市町と生徒が居住する市町は異なる

(2) 沼津地区コンソーシアムは3市3町（沼津市、裾野市、御殿場市、清水町、長泉町、小山町）に開通

(3) 県立高等学校なので、これらの市町だけでなく、県庁や東部総合庁舎等の支援が不可欠

3 学校の働き方改革

(1) 既述だけを専任として指導する教員はいない

(2) 授業、クラブ、校務、部活動等の業務でも学校の働き方改革が叫ばれている

(3) 外部講師とのコーディネーター、行政や民間とのコーディネーターは相当な負担増

5 アドバイザーによる助言

アドバイザーによる助言（大正大学地域創生学部教授・浦崎太郎氏）（当時）

「県立高校と市町を繋ぐのはリソースも少ないので、むしろ県庁との繋がりを作ろう。そこから市町と繋がるべき。事業を継続するためには、行政の予算でコンソーシアムを運営し、民間から資金が集まる仕組みを作るべき。また、実務を担当する人財を作るべき。山形県の「新庄鳳上ジモト大学」のコンソーシアム、島根県浜田市の「HAMANDA教育能力化コンソーシアム」のコーディネーターが参考になるだろう。」

6 課題の解決策

1 行政の予算でコンソーシアムを運営し、民間から資金が集まる仕組みを作る

2 ワンストップ窓口を設置し、実務を担当するコーディネーターの配置する

3 行政、民間が開催する探究学習プログラムと生徒の希望する探究プログラムを開発する

7 課題の解決により期待できる具体的な効果

1 コミュニティの創造…①エリア・コミュニティ（居住している地域内での人々の繋がりが） ②テーマ・コミュニティ（街づくりに関わる教育・医療・産業・文化芸術等に関わる人々の繋がりが） ③沼津地区高等学校コミュニティ（沼津地区の県立高校に関わる人々の繋がりが）が新たに創造される…地域・実社会との連携

2 イノベーションの発生…地域の様々な資源をコンソーシアムに創造的に導入し、教育がより質の高いものにイノベートされる…教育基盤の確立

3 アントレプレナーシップの育成…このようなコンソーシアムにおいて探究により、コミュニティに新たな価値を創造するアントレプレナーとなるような学びを実現する…学びの変革

20

令和7年度「行きたい学校づくり」推進事業 沼駿地区探究コンソーシアム計画書等

1 拠点校計画（令和6～8年度）

[illegible]

2 抛点校成果目標

	令和元年度(当初)	令和元年度末目標	令和2年度末実績(評価)
①授業内容に異校があつて字の誤り と指摘割合(%)	73.4	85.0	82.3
②(授業内容の)授業内容に異校があつて 字の誤り指摘とある割合(%)	92.6	93.0	93.1
③習熟度別(習熟度別、基礎定着率)	習熟度別: 0.98 基礎定着率: 1.13	習熟度別: 1.05 基礎定着率: 1.15	習熟度別: 0.96 基礎定着率: 1.10
自分と学習進度に関して、遅れや中間の 遅れ、進捗遅れを指摘した割合や遅れ を指摘する生徒の割合(%)	1年: 2.3 2年: 2.6 3年: 2.3	1年: 2.2 2年: 2.6 3年: 2.3	1年: 2.2 2年: 2.6 3年: 2.3
	6.6, 2.6, 3.1	6.6, 2.6, 3.0	6.6, 2.7, 2.7

3 令和7年度拠点校実施計画

[illegible]

4 連携校計画（令和7年度）

[illegible]

地域資源の有効活用例 1

【各高校の探究への関り】

- ① 講師等として参加(ワークショップ、フィードバック等)
- ② 講師等のコーディネート
- ③ 探究のプログラムを提供



© 2025 静岡県立沼津西高等学校

23

【探究研究協議会で協働】(新規)

- ① 各校や各団体と既存の企画等の共有
- ② 探究に係る情報共有、課題共有
- ③ コンソーシアムとして行うプログラムの提供(夏休み探究経験講座等)
- ④ 各校へクライアントとして探究課題への解決策の依頼 ➡ 地域貢献
- ⑤ 合同発表会の開催

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

24



© 2025 静岡県立沼津西高等学校

25

- ① 沼津西高校がモデルとなる2年間の指導計画を作成
- ② 各高校がコンソーシアムを活用した指導計画(シラバス)を作成
- ③ 静岡県経済産業部の夏休み体験講座を利用
- ④ 教材の共有

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

26

共有した目標を達成するために、各校・各団体で強みを生かして率先垂範し、課題を抱えている場合は相互に支援しあう

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

27

学習する学校

マサチューセッツ工科大学のピーター・M・センゲが提唱した概念である「学習する組織」の考え方を学校教育に応用したもので、教員、生徒、保護者、地域社会が一体となって学び、学校全体が組織として成長することを目指します。

学習する学校のポイント

教員間の学び合い: 教員が互いの授業を見学したり、対話したりすることで、指導法や課題解決策を共有し、実践力を高めます。

生徒の主体的な学び: 教員や大人から教えられるだけでなく、生徒自身が探究し、協働しながら学ぶ姿勢を育みます。

地域との連携: 学校が地域社会の一員として、保護者や地域住民と積極的に関わり、教育の質向上に結びつけます。


© 2025 静岡県立沼津西高等学校

28

「成功の循環サイクル」(システム思考)

29

「成功の循環モデル」とは、マサチューセッツ工科大学のダニエル・キム教授が提唱した、組織が持続的に成果を上げ続けるためのフレームワークです。4つの要素が相互に影響し合い、好循環（グッドサイクル）または悪循環（バッドサイクル）を生み出すと考えられています。

 成功の循環

MIT組織学習センター協働創始者ダニエル・キム

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

29

沼津西高校の4つの「C」

30

1

Change !

変化

2

Communication !

対話

3

Collaboration !

協働

4

Challenge !

挑戦

© 2025 静岡県立沼津西高等学校

30

「行きたい学校づくり」推進事業 沼駿地区
令和 7 年度事業計画（案）

期 日	内 容	出 席 者	会 場
6 月中旬～	コンソーシアム関係者打合せ	沼津西高校 高校教育課	沼津西高校
6 月 16 日	第 1 回探究研究協議会	沼津西高校、連携 校探究担当者・当 管理職	沼津西高校
6 月中旬～	コンソーシアム構築関係者訪問	沼津西高校 県庁、東部総合庁 舎、3 市 3 町	各関係団体
7 月上旬～	先進高校、総合型選抜実施国公立 大学訪問（予定） 山形県立新庄北高校、山形東高校、 筑波大学、京都市立芸術大学、 京都市立堀川音楽高校	沼津西高校	山形県、茨城 県、京都府等
9 月 17 日	第 2 回探究研究協議会（沼津）	沼津 4 校	沼津西高校
9 月 19 日	第 2 回探究研究協議会（中北駿）	中北駿東 4 校 沼津西高校	御殿場南高校
10 月 27 日	第 1 回コンソーシアム構築準備会	コンソーシアム 関係者	沼津西高校
11 月 20 日	沼津西高校探究発表会兼合同研究 発表会	コンソーシアム 関係者	沼津西高校
2 月 2 日	第 3 回探究研究協議会	コンソーシアム 関係者	沼津西高校

No.	所属	部署	職名	氏 名	出欠
1	静岡県	教育委員会 高校教育課 指導第1班	教育主査	遠藤 圭一	
2		沼津西高等学校 (拠点校)	校長	鈴木 康之	
3	静岡県	経済産業部 職業能力開発課 技能振興班	班長	石川 陽一	
4		教育委員会 社会教育課 地域家庭班	教育主査	風間 勉	
5		東部地域局 地域課	次長 兼 地域課長	大畑 英樹	
6		東部地域局 地域課	主事	中村 勇斗	
7	沼津市	教育委員会 生涯学習課	主任	渡邊 真由美	
8	裾野市	環境市民部 自治振興課		持田 睦乃	×
9	御殿場市	企画戦略部 企画課	課長補佐	川口 聡	
10	清水町	産業観光課 産業振興係	主幹 兼 係長	持田 泰輔	
11	長泉町	企画財政課 企画調整課チーム	主事	古屋 海斗	
12	小山町		理事	鷺巣 春人	
13		教育委員会	教育次長	大庭 和広	
14	静岡銀行	沼津西支店	地域共創戦略担当部長	匂坂 勝哉	
15		沼津西支店	支店長	山本 晴加	
16		沼津西支店	コーポレート担当	古木 凜	
17		沼津西支店	コーポレート担当	鈴木 彩華	
18	ジブラルタ生命保険㈱ 静岡支社	静岡第四営業所	営業所長	横田 雄三	
19		静岡支社 静岡第四営業所		武末 力	
20	沼津商工会議所	産業振興部 経営支援課	主事舗 経営指導補助員	八木 響生	×
21		青年部	会長	杉山 勇太	×
22		御殿場高等学校 (連携校)	教頭	池谷 明治	
23		御殿場南高等学校 (連携校)	副校長	小泉 洋幸	
24		小山高等学校 (連携校)	副校長	小柳出 賢治	
25		裾野高等学校 (連携校)	副校長	大石 友美	
26		沼津東高等学校 (連携校)	副校長	市川 幸子	
27		沼津城北高等学校 (連携校)	教頭	秋永 能宏	×
28		沼津工業高等学校 (連携校)	副校長	土屋 佳彦	
29		沼津商業高等学校 (連携校)	副校長	瀧口 崇	
30		市立沼津高等学校 (オブザーバー校)	副校長	松本 新吾	×
31	独立行政法人国立高等専門学校機構	沼津工業高等専門学校 (オブザーバー校)	副校長 (総務主事)	稲津 晃司	×
32	山形県立新庄北高等学校	(アドバイザー)	地域探究部外部コーチ	坂本 健太郎	Z
33	浜田市教育委員会 教育部	学校教育課地域学校連携係 (アドバイザー)	魅力化コーディネーター	熊谷 修山	Z
34	浜田市教育委員会 教育部	学校教育課地域学校連携係 (アドバイザー)	魅力化コーディネーター	大地本 由佳	Z
35	常葉大学	(アドバイザー)	非常勤講師	望月 良憲	
36		沼津西高等学校 (拠点校事務局)	副校長	平井 剛	
37		沼津西高等学校 (拠点校事務局)	教頭	渡邊 祥雄	
38		沼津西高等学校 (拠点校事務局)	探究推進室長 教諭	平野 雄大	
39		沼津西高等学校 (拠点校事務局)	探究推進室 教諭	大熊 悠斗	
40		沼津西高等学校 (拠点校事務局)	教育主査	望月 和子	